

広州・香格里拉・老君山・麗江を訪ねて

山 口 ま り

今回の旅は、植物の宝庫雲南省に青いケシや石楠花・プリムラを見に行こうと計画された。6月26日～7月3日の8日間、19名の参加で、近畿日本ツーリストで催行された。

6月26日(日)

いざ中国・広州へ

成田国際空港を定刻の10:00に日本航空で離陸、5時間弱のフライトで広州の新白雲国際空港に到着。時差は-1時間。気温32、日本以上の蒸し暑さである。

広州は、年平均温度22、最高温度は39、最低温度は0、雨量1900mm、人口1000万人、中国南部の最大の都市で華南地方の中心地。

14:15、迎いのバスで空港より華南植物園に向かう。中国最大の亜熱帯植物園で315万㎡に8000種を超える植物が栽培され、ヤシ・シュロ類、竹類、ラン類、ソテツ類、シダ類のコレクションが有名という。



華南植物園
中国最大の亜熱帯植物園
のダイオウヤシの並木

16:30に植物園を後にして、午後5:00ホテル着。広東海鮮料理にて「再会パーティー」。さすが、食は、広州にありという言葉通りの美味な中華料理である。

6月27日(月)

一大花卉産地の順徳へ

中国一の花弁の生産・流通拠点となっている広州に隣接する順徳へ。

花卉流通センター・陳村花卉世界有限公司を訪ね

る。ここは政府が花卉の発展のために設立した会社で、広告・研修・研究開発・輸出入・博覧会野開催などを行っている。会社の概要を伺った後、周囲にある卸売り会社を訪ねる。

12:30に順徳にて昼食。昼食後、激しい雨の降る中、広東省の4つの名園の一つで清暉園へ。

15:30に雷雨の中、順徳生態楽園へ。200万㎡を有し、自然のままの植生を保っている公園で蓮池や沼が点在し、白鷺が舞っていた。

雨のため、早々に引き上げる。夕食は、子豚の丸焼きがメインの本場の広東料理を頂く。

6月28日

理想郷の地・香格里拉(シャングリラ)へ

広州7:20発、空路シャングリラに出発。9:50シャングリラ空港に到着。気温13、標高約3,300m。一気に高地にきたために2/3の方が軽い高山病を訴える。

10:30雲南省のチベット仏教(ラマ教)最大で第5代ダライ・ラマゆかりの寺院、松贊林寺へ。本堂まで長い階段を登っていく。階段の両側には宿坊が並び、階段脇の釣鐘型のクリーム色の小さなクレマチス(*Clematis rehderiana*)にししばし息苦しさを忘れる。



チベット仏教最大の寺院の松贊林寺

昼食後、両側が深く切れ込み、天然の橋のような地形の天生橋へ向かう。*Incarvillea mairei*の赤紫の大型の花に、雲南の植物との出会いの期待が高まる。

依拉草原へ。途中の道路の脇の草原には色とりどりの小花がバスの車窓から見られ、途中でバスを止め周



天生橋にて *Incarvillea mairei*



シャングリラ郊外の小川の
流れる湿地で
黄花の*Primula sikkimensis*



シャングリラ近郊の草原にて
Iris brubatulata



白い台地の白水台 上部は棚田のように

辺を散策。背丈10cmほどのイリス (*Iris brubatulata*)、ベルシカリア、春咲きの小型リンドウ、キンボウゲの仲間などが咲き乱れている。

納帕海 (依拉草原) は、期待はずれで雨も降り出したので、早々に退散。

16:00 香格里拉植物自然保護区に到着。ここは道路に面し、小高いガレ場というところ。雨が上がるのをバスの中で待つ。ここで、初めて青いケシ (*Meconopsis prattii*) と出会う。真っ赤なアンドロサセ (*Androsace bulleyana*)、ジンチョウゲ科クサジンチョウゲ属の黄色の小花を付けている *Stellera chamaejasme* など、春の花が咲き始めたばかりという景色である。

17:30 松贊林寺の近くにあるチベット料理の店で夕食。ヤクや羊の肉料理や鍋料理。

6月29日

トンパ文化発祥地のひとつ白水台へ

8:00にホテルを出発し、バスで白水台へ向かう。

今年は、雨季が遅く、開花が遅いという。しかし、バスの車窓からは、様々な花が通り過ぎてゆくのが見え、そのたびに歓声が上がり途中2箇所バスを止め花の撮影に興じる。最初の停車は青いケシ、エリゲロ

ン、シノグロッサムなどが点々と咲いているガラ場。

次に止まったところは、小川が流れる湿地。桃 (*P. poissonii*)、黄色 (*P. sikkimensis*) のプリムラ、背丈50cmほどのアヤマ (*Iris bulleyana*)、小型のシオガマ (*Pedicularis siphonantha*)、小型のランに見間違えるショウガ科の *Roscoea tibetica* など、足の踏み場も無いほど。

11:20、白水台の入山口に着く。ここは、標高2400m程などで、呼吸が楽にできる。昼食後、ごうごうと音を立てて流れる小川の脇の遊歩道を上り始める。

白水台は、大地の上から流れ出る湧き水に含まれている炭酸カルシウムが山肌を覆って白い台地になったという。台地の上は、水が幾筋も流れ、プリムラ類、ユーパトリウム、ヤマボウシ、大型の桃色のタリクトラム、淡い桃色のアンドロサセ、春咲きのリンドウの仲間があった。

14:00に白水台を出発し、帰路に。シャングリラのそばの属都海と呼ばれる湖へ向かう。

途中、花の撮影タイムでバスを停車させる。ここでは、プリムラやイリスの他に *Nomocharis forrestii* が点々と咲いていた。

属都海はシャングリラから36kmほど離れ、標高



白水台～シャングリラにて
Nomocharis forrestii



属都海にて
Thermopsis barbata

3,700mほど、湖・草原・森林が幻想的な風景を織り成す場所。湖周辺は草原になっていて、銀葉と濃い紫の花の対比がシックなマメ科の *Thermopsis barbata*、小型のペルシカリアの仲間、*Anemone obtusiloba*、*Erigeron*、*Roscaea* などが見られた。

帰途、木に絡みつきチョコレート色の花を咲かせているクレマチス (*Clematis pseudopogonandrs*) の場所でバスを止め撮影タイム。今日の花の出会いに満足し、ホテルへ。

6月30日(木)

世界文化遺産の都市、麗江へ

終日、バスにて麗江への移動日となる。8:00ホテル出発。シャングリラとの別れを惜しむよう、峠付近でバスを止め、花の撮影。アネモネの仲間、アンドロサセ、マツムシソウ科の *Morina nepalensis* などが木漏れ日が当たる林床に生えている。

11:10虎跳峡着。虎跳峡は高低差3,790mの世界で最深の峡谷の一つである。駐車場から茶色の激流の側まで往復1800段の階段を行く。

昼食後、諸葛亮孔明がここを通過して孟獲を倒したと

いう歴史的名刹で、流れが120度湾曲し向きを変える長江第一湾へ。

15:00に今晚宿泊する麗江のホテルに着。麗江は、標高2,300m、年間平均気温6.6～18.8と過ごしやすいところ。ナシ族を中心に、ペー族、イ族、リス族などの民族が住んでいる。

16:00にホテルを出て、1997年、ユネスコの世界文化遺産に指定された麗江古城へ。

夕食後、19:30より、市内のホールにて少数民族のショーを観劇。少数民族の特徴ある衣装・風習がミュージカル風にアレンジされたショーであった。

7月1日(金)

青いケシを堪能した老君山へ

7:00にジープ6台に分乗し、ホテルを出発。1時間あまりは舗装された道を走ったが、その後は、未舗装の細い山道。

9:50老君山入山口に到着。開けた草地にツツジのブッシュ、黄色のスミレ、ノモカリス、ゲラニウム、プリムラ、ポテンティラなどが咲いている。

急勾配の山道を、ぐんぐん高度を上げながらジープが走る。石楠花の里といわれるくらいシャクナゲは多いが、すでに花期が終わり、所々に咲き遅れの花が見られる程度。

10:50登山口の駐車場到着。標高3,780m。針葉樹の高木と樹高5mを越えるような白い幹のシャクナゲが混生した林で、枝にはサルオガセ類が垂れ下がっている。駐車場の下方は湿地帯になって、ワタスゲがベージュ色の花を咲かせ、ブルーのコリダリス、黄色のポテンティラ、紫のプリムラ (*Primula poissonii*) などが咲き乱れている。ブルンネラのような大型のムラサキ科の植物、青いケシなどもみられた。

昼食後、12:15、いよいよ花を求めて4,000m近くまでのハイキング。3時間ほどでハイキングコースを1周できるという。

13:00、下と上へ向かう分岐点に到着。足と呼吸に自信のある4人が1周に挑戦。残りは、分岐点周辺を散策することになり、二手に分かれる。

シャクナゲ主体の林の中は厚くコケが覆い、イワヒゲ、ベルゲニアなどが、尾根沿いにはギンロバイ、小型のシャクナゲ、タデ科の *Koenigia* などがみられた。遊歩道の上部は池が3段に連なり周囲は湿原になって、リュウキンカ、濃い紫色のプリムラ (*P. deflexa*)、*Morina nepalensis*、シオガマなどが花を咲かせている。



老君山にて ダイオウ *Rheum alexandrae*

また、池の周囲にはダイオウ (*Rheum alexandrae*) が点々と白い姿を見せている。3段目の池から皆と分かれた分岐点へ向かう道の両脇は、林の中のお花畑である。ここは、背丈1mほどの青いケシが群生し、ピンク、赤、黄色のものまであり、青いケシというより“七色のケシ”と呼んだほうがよさそうである。

15:40、老君山出発。途中から雨になったので、帰りは、撮影タイムなしでホテルへ。

19:00、麗江着。夕食は、雲南名物のマツタケやキノコを使った料理で、一日早いさよならパーティー。

7月2日(土)

昆明へ

麗江から40分あまりのフライトで昆明空港に着く。昆明は、雲南の省都として元の時代から栄えた都市で、別名を「春城」といい、常春の土地である。

斗南花卉という大きな市場へ。ここは、生産者が直接切花を売買する相対取引場と消費者も購入できる中



昆明の斗南花卉にて
生産者が直接切り花を
持ち込んで売っている

卸のような場所とに分かれている。

5分ほど歩いてセリをする建物へ。オランダ式のセリ下がり式が取り入れられている。

昼食後、昆明の花博会場跡へ。カートに乗り会場を1周する。

16:50、「雲南民族茶道館」へ。特徴ある4種類の中国茶を頂く。

夕食後、空路広州へ。22:00広州着。ホテルへは、23:30着。

7月3日(日)

帰路へ

いよいよ、最終日。ショッピングの後、広州市民が利用する自由市場に行く。生きているサソリ、蛙など東南アジア・中国と思わせる食材が溢れている。

昼食は、飲茶でこれが最後の中華料理となる。それぞれの土地の特徴ある料理を頂いたが、香辛料の強さと油の多さで、少し辟易気味となってしまった。

現地時15:30広州を出発し、20:30成田着。軽い高山病の中で出会った青いケシやプリムラなどの花たちをお土産に、それぞれの家路についた。



麗江古城にて 調査団メンバー19名